

今日のトピック インド株式市場は高値圏でもみあい（2019年12月） 追加利下げ見送りが嫌気されるも米中協議進展を好感

【インド市場の推移】

インド市場	基準日	騰落率または変化幅 (%)			
	12月13日	1週間	1か月	6か月	1年
為替レート					
円/ルピー (円)	1.54	1.3	2.3	▲1.0	▲2.6
ルピー/米ドル (ルピー)	70.82	▲0.5	▲1.8	1.9	▲1.2
金利 (%)					
政策金利	5.15	0.00	0.00	▲0.60	▲1.35
10年国債利回り	6.79	0.12	0.26	▲0.22	▲0.62
株価指数 (ポイント)					
SENSEX	41,009	1.4	2.2	3.2	14.1
NIFTY中型株100	16,932	1.2	1.4	▲4.5	▲3.5

(注) データは2019年12月13日基準。

(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

(ポイント)

【インドの株式、通貨】

(円/ルピー)



(注) データは2018年12月13日～2019年12月13日。

(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

ポイント1 SENSEXは最高値圏で一進一退

- インド株式市場は、高値圏でもみあっています。代表的な株価指数のSENSEX指数は、11月28日に引け値ベースで史上最高値を付けた後、29日に発表された7-9月期のGDP成長率が前年同期比4.5%と6年半ぶりの低水準にとどまったことや、12月5日にインド準備銀行（RBI）が大方の予想に反して追加利下げを見送ったことが嫌気されて、やや上値が重くなりました。その後、先週末には米国が中国との貿易協議で第1段階での合意に達すると報じられたことや、英選挙で与党保守党の過半数確保が確実になったことから投資家のリスク選好姿勢が強まり、再び最高値に迫る展開となりました。

ポイント2 インド準備銀行は利下げ見送り

- RBIは12月5日の金融政策決定会合で、政策金利を5.15%に据え置きました。景気減速を背景に市場では6会合連続の利下げが予想されていましたが、インフレ率が上昇しているため政府の景気対策やこれまでの利下げの効果を見極める姿勢を示しました。RBIは緩和姿勢を継続しつつ、インフレが鈍化し始めるまでは追加利下げに慎重な姿勢をとるとみられます。また、20/21年度の政府予算案（2月1日発表予定）に景気対策が盛り込まれる公算があるため、追加利下げを行うタイミングは後ずれする可能性が高いと思われます。

今後の展開 最高値圏でもみあいが続く

- 米中協議の進展で投資家のリスク選好姿勢が強まるなか、インド株式市場は当面底堅い展開が見込まれます。一方で、法人税減税のプラス効果を除けば企業業績見通しに改善傾向がみられず、実質的な株価バリュエーションに割安感がないことや、中長期的な財政悪化リスクが上値を抑えそうです。

ここもチェック! 2019年12月 6日 **インドの金融政策：予想外の据え置き（2019年12月）**
2019年11月27日 **インド株式市場は堅調推移（2019年11月後半）**

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。